

繪本
敵討

岩見英雄錄

壹

遠13
2509
35-1

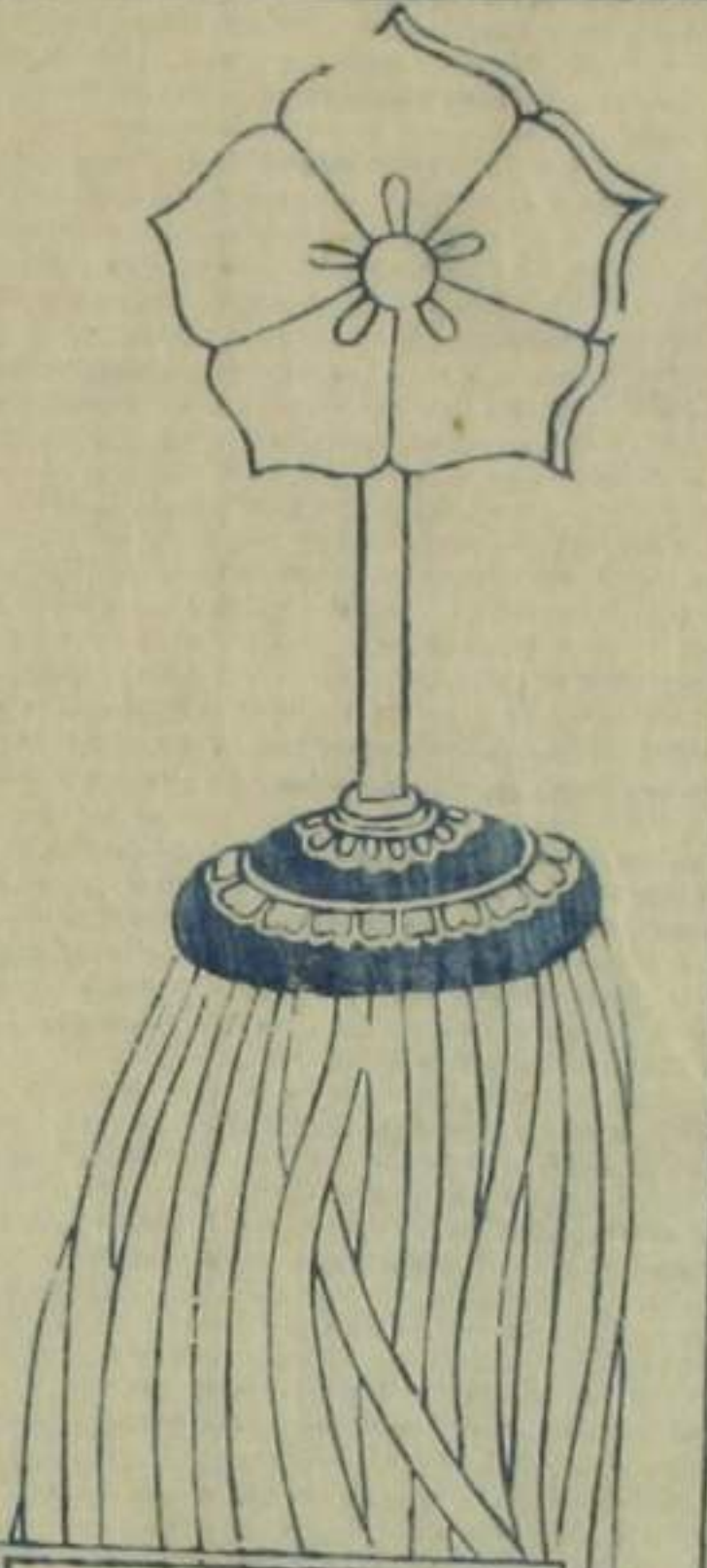


遠
2509
卷 1-35

南海 水原玉藻畫圖

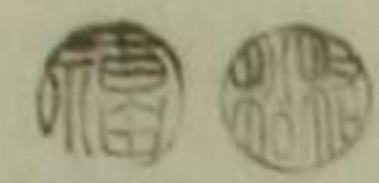
漢仇英雄錄

全部 七册



浪花
書林

文榮堂



漢仇英雄錄序



新ニ以キの興起也。而以庸陋之寸境
 市ト以風弄月。則ラ非古人詩史之
 旨ニ其飾ハ多而構ハ存ス辭ハ戲ハ之文
 墨ハ由テ傳ハ奇ニ小説ハ河ソ曾テ矣ナ乎ハ然レ以

漢仇英雄錄序

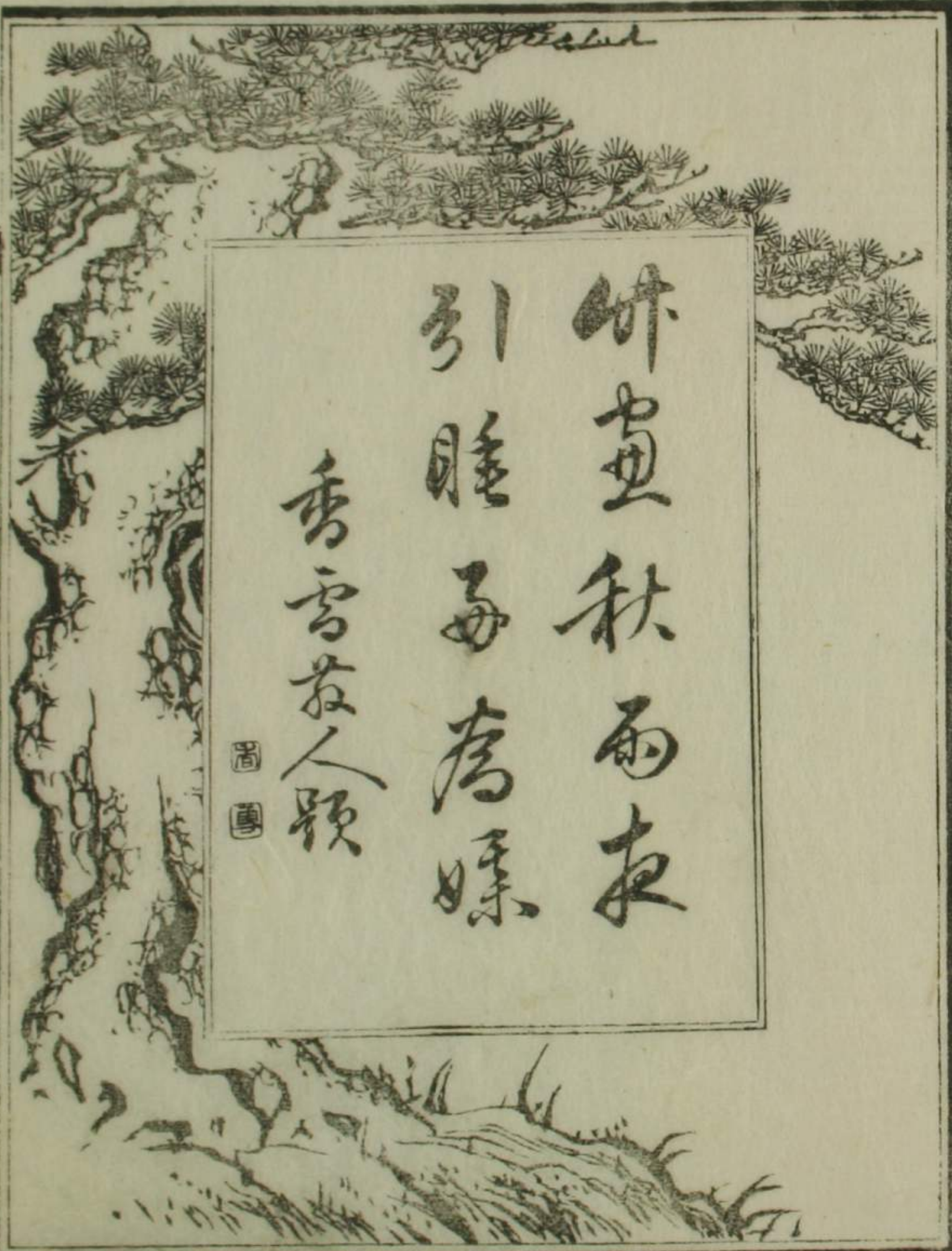
算係世之風教。或有遷讓
焉。近古爭戰。西漢一戎。并有
完具。長者仗劍。跋涉千里。能渡
其父。繼而後。東竟以切名。顯于世云。
書肆種。至也。主人。近日錄。其子。蹟。

間。臨。京。之。速。水。嘉。曉。訪。函。之。貴。國。
將。上。梓。而。激。余。序。焉。余。與。主。人
有。舊。祖。不。以。辭。也。且。余。嗜。詩。
雖。不。追。飾。之。而。以。構。之。習。然。屬。句。
之。寸。毫。以。辭。隻。句。之。奇。以。可。傳。世。

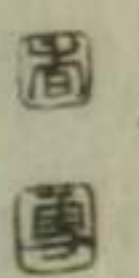
也。而遠讓此一小説之稱。存身之勉
勵士風者。蓋深有慙之矣。因書
此意。以自警。俾償其託云。
弘化戊申初春

南海小芙蓉居士





竹畫秋雨夜
引睡為癖
香雪主人題



岩見十左衛門

無重像



身殞三克手
名稱四傑魁

香雪散人

岩見重太郎

包益像



虎子生来氣食牛武妹
夙秀風毛相驍名他日切多
少不獨苗年漫又雙

香雪散人歌 周園



成瀬大學助

光純

寛政九年

出象二



龍心一様石揚頑尾
 奮勇生伏草冒三
 人渾身男兒志好強
 難辭一字如

香雪教人教

大川八左衛門

國忠

廣瀬軍右衛門

持世

徳川幕府

出象一

復仇英雄録前編惣目録

卷之一

發端 岩見重右衛門生立話

名鳴城下繁昌の圖

鈴木後平重右衛門

英重右衛門大杉山邊英人話

鈴木後平重右衛門と秋の圖

其二



重出

石見重右衛門

橋包登

後年の像

重右衛門学武術於異人

并六猿与岩見競術話

重右衛門異人子遊小島

卷之二

重右衛門御立會

并鈴木岩見競術話

重右衛門立會乃圖

岩見重右衛門御立會

并松方古始試合話

重右衛門御立會

岩見兄弟試合の圖

二十八人御立會

并重右衛門打懲二十八士話

岩見包蓋壯士等小あし圖

重右衛門二十八人を打懲を易

卷之三

完戸侯圖諱穿紙

并二十八人不真返放話

壯士為會議の圖

重右衛門子孫を賜ふ事

吳又而勘當せし事

奸佞毒計勸酒石見并大窪堤母傷話

若殿系吳又而小あし圖

大窪堤母傷の圖

卷之四

岩見重太郎知行加増

并重右衛門武者修行話

岩見包差出せる圖

於君前岩見兼重与三士競武術話

完戸侯雪見真宴

并三人共修周殺岩見話

完戸侯雪見の圖

廣瀬成瀬大川等雪夜に出奔の圖
三人のぬれ洗岩見兼重と害する圖

卷之五

數浪悲傷病死

并 重藏兄妹復讐言出立話

重藏父の核死を母に告る圖

岩見重藏兄妹尋仇話

重藏兄妹國を去る圖

嗣子為賊被勾引

并 重藏慶元賊話

嗣子賊に勾引する圖

重藏兼足元賊成慶子とる場

岩見兼足兄妹板橋繩子

父の讐言成願廣瀬大川不違小圖

惣目錄終

教員言

此書前編の画并平安の故速水喜咲齋之
 乃遺圖とそりれと集めたり少くも臨写し
 以て文外此録情とわくその巻首に書れり
 岩見式父子并廣成成大川並の補像及び
 岩見式並と火を打櫃の第二圖と巻末の二幅と
 水原玉藻子の補ひ換て之後篇とわくても
 それとと煩とよよとわくは波筒端の好白と録也

繪本攘仇英雄録前編卷之一

目録

發端 岩見重吉而生立話

名所の城下繁昌の圖

繪本復平叙重吉

孫重太郎大坂山邊見人話

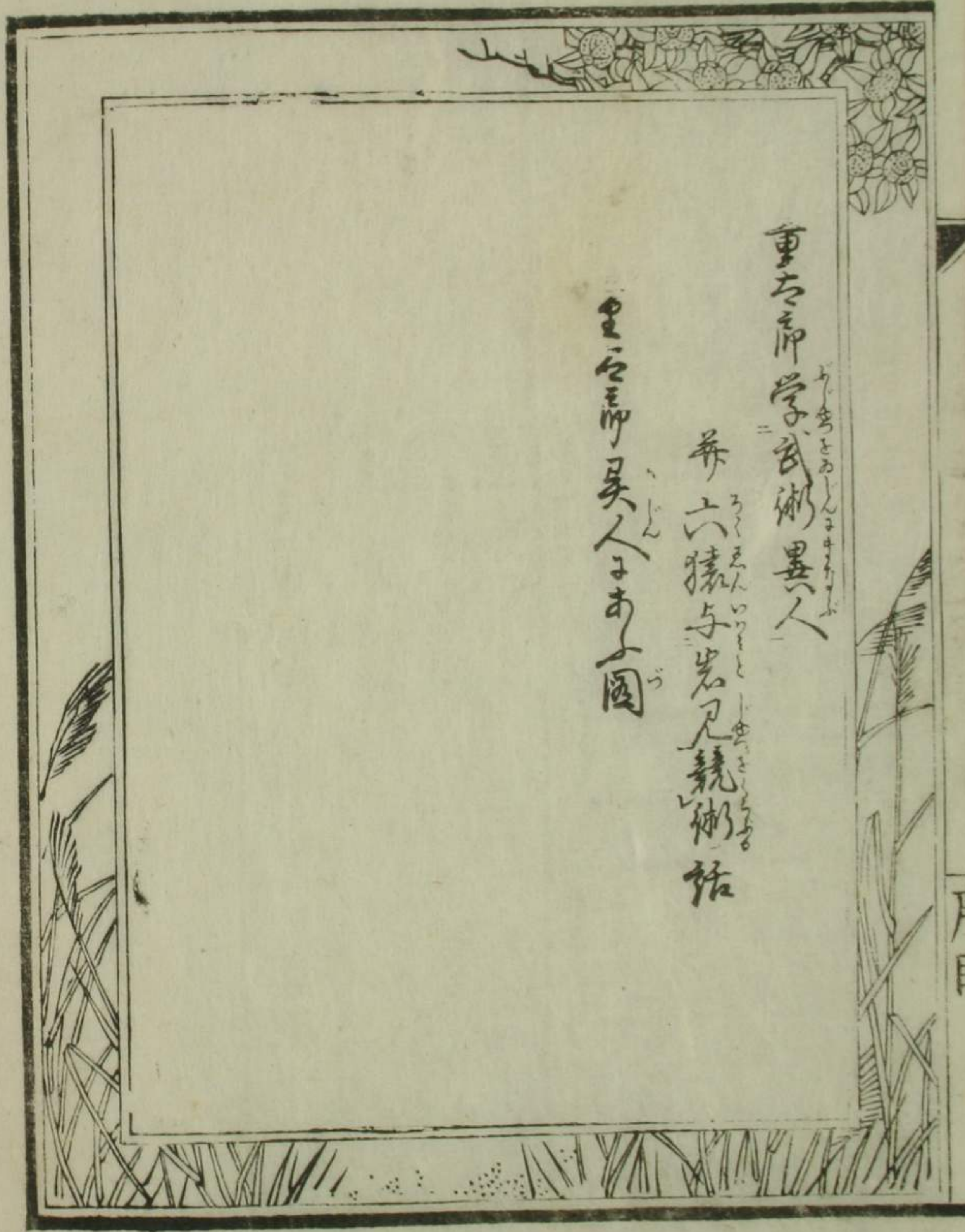
日圖

其二

重吉師学武術異人

并六猿与岩見競術話

皇仁帝吳人子也國

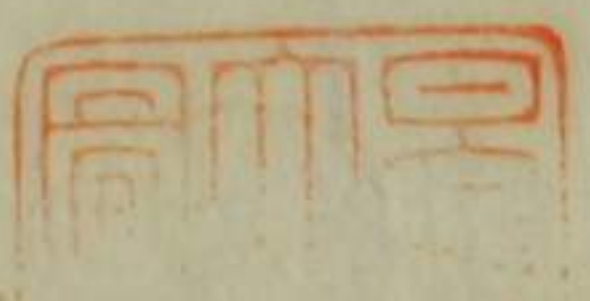


繪本復仇英雄錄前編卷之一

發端

岩見重太郎生立話

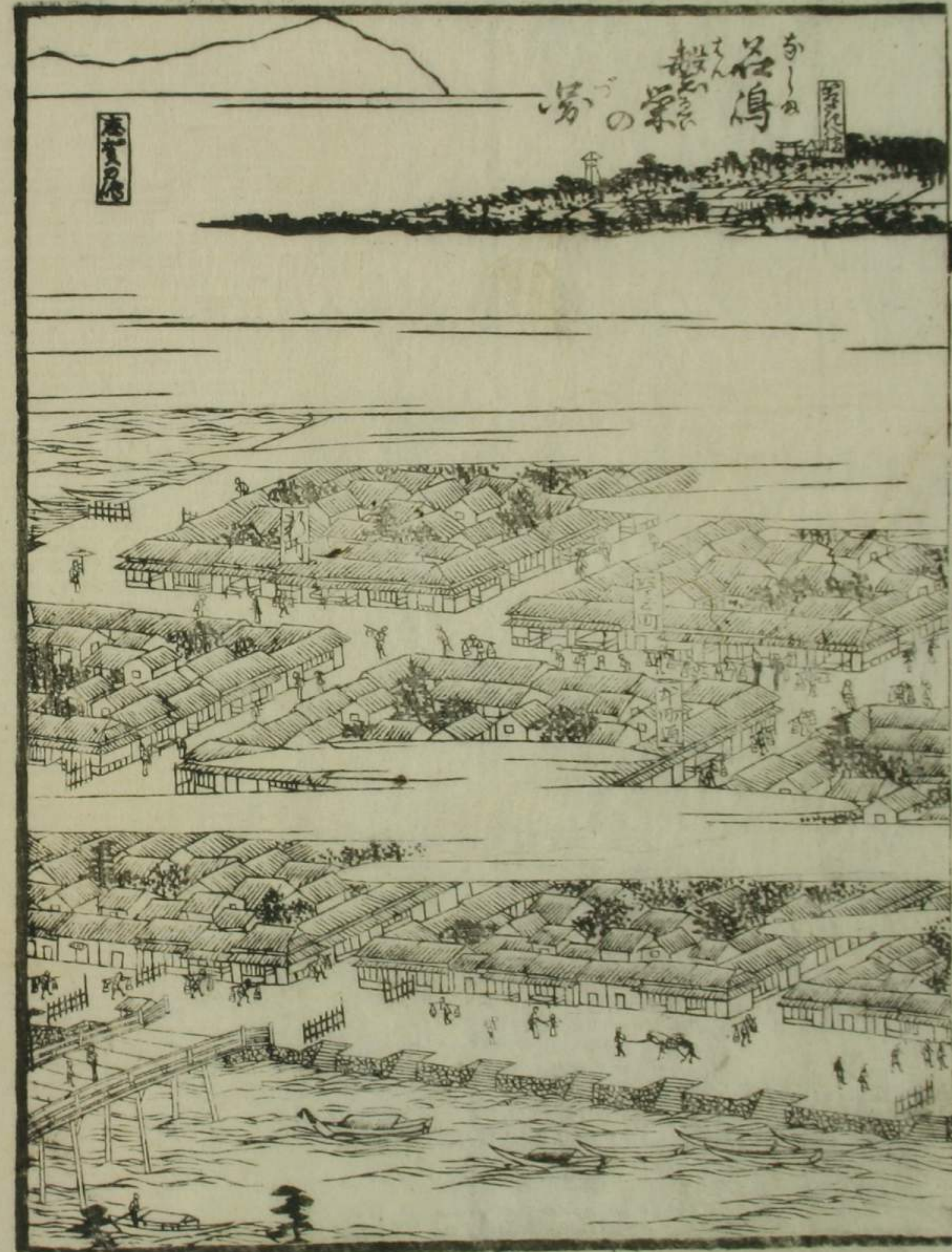
四海困窮其天祿長くおのりんと云々... 皇都西朝府と用き又子兄弟相及く世家の上將多し... 矣臣深義政云ふ至て文弱尤多し... 兩雄控勢とありし... 東國日今川武田里見小條小園上杉長尾富山南海河野三好西海三... 龍造寺千鶴大友中堅の大内尼子など英雄豪傑の奥七盡表百餘... 事の同野我史不体時なり... 足利家の覇業日衰... 先歴世不臣の天譴とありと雖... 豈見孫孫奢淫逸の侵せし事や衰...



復仇英雄錄前編卷之一



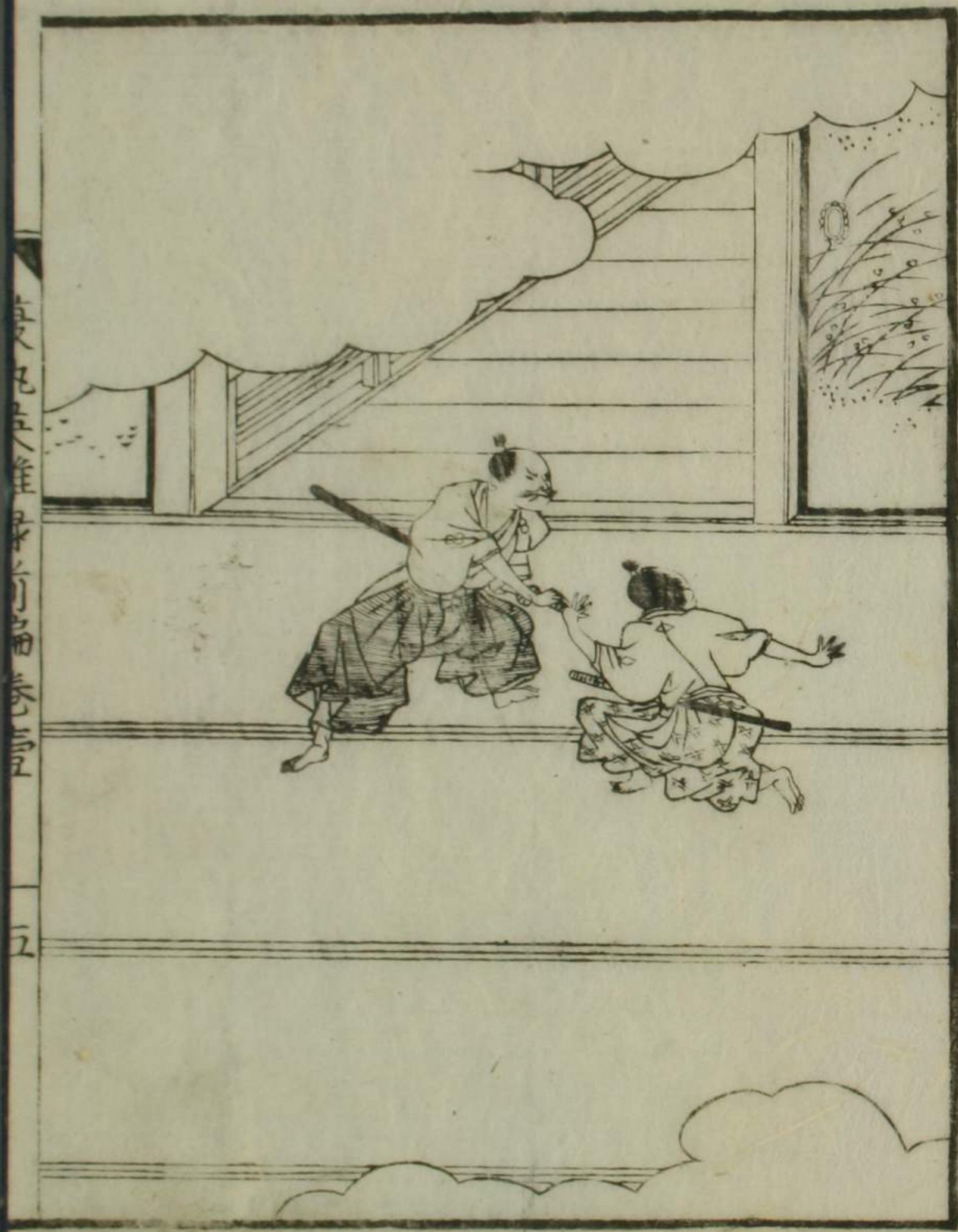
長門守の御舟



長門守の御舟

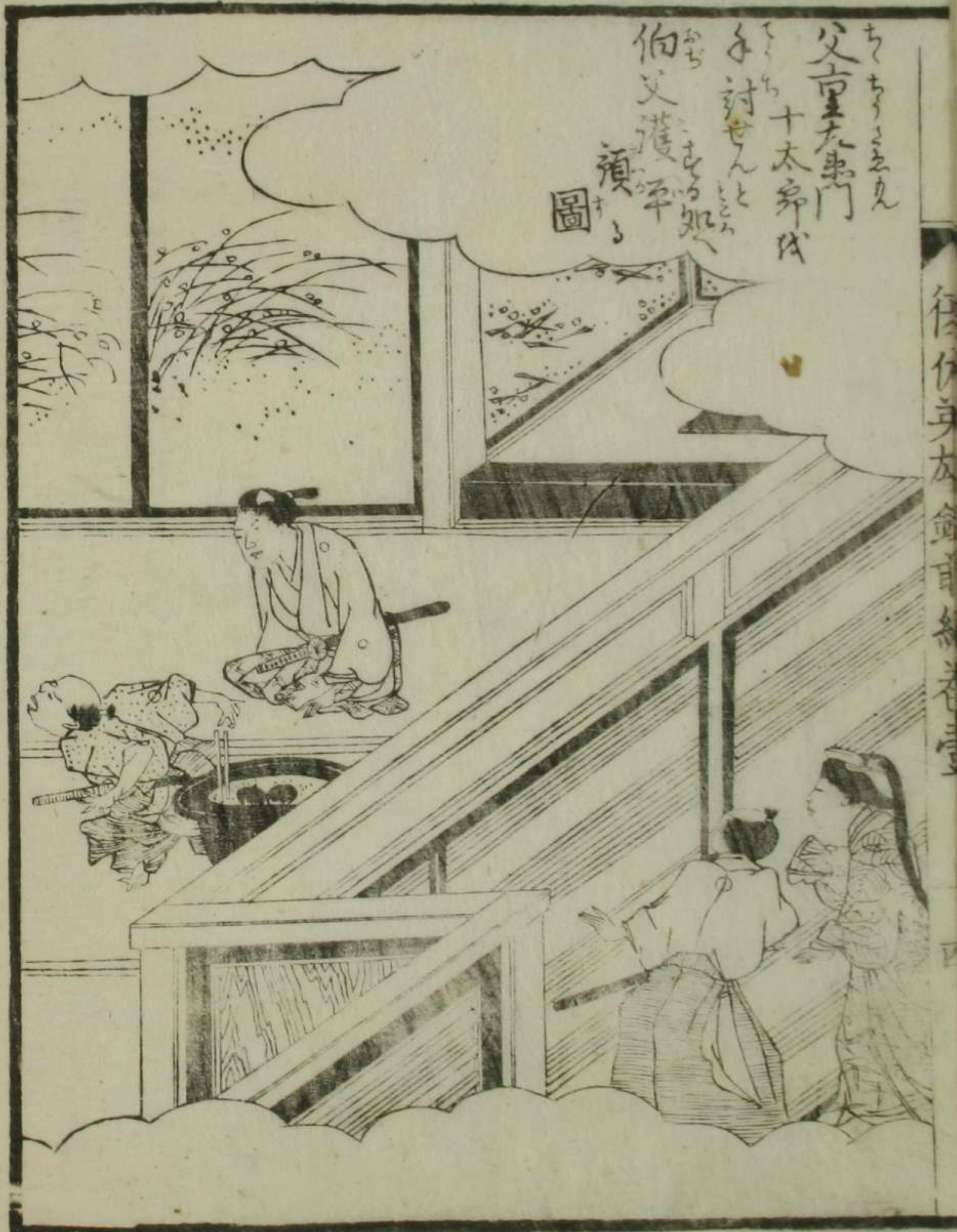
ろうが二文の比より此の重さより一倍多 物成候と持参り
 又此後強く見重蔵が素續たる如の小字太字孝經をん
 又受てより重さ早に成補しれども又十五馬門母成浪も早に
 一親重さより重さの重さで運ば立立り歩ゆく成長する代
 引延びて侍中より其内未女は生息も又早に
 にか移り重さ早に成りたるも早に成りたるも早に成りたるも
 ちる。重さ早に成りたるも早に成りたるも早に成りたるも
 早くし思ひ奉定りて雀燕の羽成射落し申度不及。又石成候
 しく六次候所。是又後半度地が成り申度多し。又十五馬門
 候。早に成りたるも早に成りたるも早に成りたるも早に成りたるも
 頼母し思ひ奉りたる。月日実守りて永禄二年に。十六歳成りたる

はくし時疫成りしに九死一生に及んれり父母終りたるも早に
 遠近の良医成りしに委のりし袖成りし別と相持
 八歳又新推察のみ夫婦。我子の成りたるも早に成りたるも
 成りて神を納更に成りたるも早に成りたるも早に成りたるも
 父母の悦び大方きり。八歳又預成候の御幣成り捧げ神楽料
 及び神馬一領成り奉納し。重太早に大病の後、お若只
 引之討症の病とありし。外面出て持参り成り好まざるも早に
 殺生荒業成りて。昼夜も習子文にのり。成りし
 一間の。成りたるも早に成りたるも早に成りたるも早に成りたるも
 病成りたるも早に成りたるも早に成りたるも早に成りたるも
 重太早に三人の子成り成り。教訓成り成り。



徳川家御前御用書

五



ちちりて丸
父重九郎門
十太郎氏
子討せん
伯父護平
顔
圖

徳川家御前御用書

子成つれ先達の南志也教て忘れゆらばも私しきごと幼女にて
 所節固りゆらば結ぶ糸紐術の勢吉に記してを。又本刀竹刃
 更換し此此不底と更いそふ。不孝に成れ此此よき孝経の中
 能体髪皮肩袂扱ひ中ぐらふは孝行くとわはよきまご今將くと
 去病云持ちあきまの清免もまづと幸よういゆらていつと大徳と
 三入まきま。又十たあつ廿五と兼色瓜扱じまき持ははうら言
 結うまら。我何を信しよと必まき。紐術成習ふ事と持ちく
 字字不更とまき言通んとする。臆病者兄の十歳とまき我教は
 守りて。吾もまきゆら武藝を不飛と漸く。夜も字問中眼は
 文武とも捨む。勸く字字を此此へ追ふ上達なり。夫ふりて又乃
 教不肖く不知存者。汝が如く不肖の持有り却て又の操名

